

教科名	国 語	科目名	現 代 の 国 語	必修					
科 別	普 通	科 学 年	1 年	コース名	一 貫	コース	2	単位	文理共通
教 科 書 (発 行 所)	現代の国語(大修館書店)								
副 教 材 (発 行 所)	入試頻出漢字+現代文重要語彙TOP2500(い い ず な 書 店)								

学 習 目 標		国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。
	思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	1 明日をひらく 「白紙」 「伝える、伝え合う」	・言葉やコミュニケーションの基礎を知り、学びに向かう姿勢をつくる。 ・相手や目的に応じた語句や文体の使い方を身につける。	年間通して適宜小テストや課題を行う。
	5	2 要点をつかむ 「水の東西」(読む) 3 的確に伝える 「伝わるように話す」(話す・聞く) 4 意見を示す 「発想を広げる」(話す・聞く) 「意見を書く」(書く)	・叙述を的確にとらえ、具体と抽象を理解する。 ・文章の要点をまとめる。 ・話し言葉の特徴を知り、聞き手が理解しやすい説明の仕方を考える。 ・相手に正確に伝える書き方を身につける。	
	6		・他者と意見を交流し、アイデアを出し合い整理する。 ・構成や展開を意識して文章を書く。 ・根拠を明確にして、自分の意見を書く。	
	7	5 論理をとらえる 「動的平衡としての生物多様性」(読む)	・主張と根拠、理由づけの関係をとらえる。 ・演繹、帰納に着目し、文章の論理をとらえる。	夏季課題学習
第 2 学 期	9	6 魅力的に伝える 「工夫して話す」(話す・聞く) 「魅力的な紹介文を書く」(書く)	・相手の興味を惹くように、構成や展開の工夫を学ぶ。声の強弱や話す速度などを意識する。 ・さまざまな表現上の工夫を知り、読み手が共感できるような文章を学ぶ。	夏季課題提出
	10	7 資料を駆使する 『安くておいしい国』の限界」(読む) 「統計資料をもとに意見を書く」(書く)	・資料と文章の関係に注意して情報を読み取る。 ・統計資料を正確に読み取り、情報を組み合わせたり比較したりして、自分の主張を書く。	
	11	8 他者と交流する 「目的に沿った質問をする」(話す・聞く) 「状況に応じた通信文を書く」(書く)	・質問の目的を明確にし、知りたいことへの理解を深める。 ・通信文の基本的なルールを知る。 ・相手や場面に応じた通信文を書く。	
	12	9 情報を比較する 『美しさの発見』について」(読む)	・複数の文章を比較し、共通点や相違点をとらえる。	冬季課題学習
第 3 学 期	1	10 他者を動かす 「説得力のある資料をつくる」(書く) 「資料を用いて発表する」(話す・聞く)	・提案を検討する際に必要な要素を押さえる。 ・効果的な表現や資料の提示の工夫を学ぶ。 ・資料に基づいて、聴き手の心を動かす話し方を工夫しながら発表する。	冬季課題提出
	2	11 主張を吟味する 「贅沢を取り戻す」(読む) 「文章を読み取って主張を書く」 「討論をする」(話す・聞く)	・文章中の根拠や引用に注目し、その妥当性や信頼性を吟味する。 ・他者の主張をふまえて、自分の考えを書く。 ・司会者、参加者それぞれの役割を理解するとともに、論理展開や表現を意識しながら自分の意見を述べ、相手の話を評価する。	
	3	12 考えを発信する 「白」(読む) 「結論を出すために話し合う」(話す・聞く) 「レポートを書く」(書く)	・目的に即して必要な情報を読み取る。 ・異なる意見を持つ人同士が話し合い、結論の出し方を学ぶ。 ・適切な情報を集め、問いを立てる。 ・調べたことを根拠として、問いを解決するレポートを書く。	春季課題学習

進捗状況やコースによって学習内容を変更する可能性があります。

教科名

国語

科目名

現代の国語

必修

科別

普通

科学年

1

年コース名

一貫

コース

2

単位

文理共通

教科書（発行所）

現代の国語(大修館書店)

副教材（発行所）

入試頻出漢字+現代文重要語彙TOP2500(いっずな書店)

学 習 目 標		国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
観 点 別 評 価	知 識・技 能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。
	思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	1 明日をひらく 「白紙」 「伝える、伝え合う」	・言葉やコミュニケーションの基礎を知り、学びに向かう姿勢をつくる。 ・相手や目的に応じた語句や文体の使い方を身につける。	年間通して適宜小テストや課題を行う。
	5	2 要点をつかむ 「水の東西」(読む) 3 的確に伝える 「伝わるように話す」(話す・聞く) 4 意見を示す 「発想を広げる」(話す・聞く) 「意見を書く」(書く)	・叙述を的確にとらえ、具体と抽象を理解する。 ・文章の要点をまとめる。 ・話し言葉の特徴を知り、聞き手が理解しやすい説明の仕方を考える。 ・相手に正確に伝える書き方を身につける。	
	6		・他者と意見を交流し、アイデアを出し合い整理する。 ・構成や展開を意識して文章を書く。 ・根拠を明確にして、自分の意見を書く。	
	7	5 論理をとらえる 「動的平衡としての生物多様性」(読む)	・主張と根拠、理由づけの関係をとらえる。 ・演繹、帰納に着目し、文章の論理をとらえる。	夏季課題学習
第 2 学 期	9	6 魅力的に伝える 「工夫して話す」(話す・聞く) 「魅力的な紹介文を書く」(書く)	・相手の興味を惹くように、構成や展開の工夫を学ぶ。声の強弱や話す速度などを意識する。 ・さまざまな表現上の工夫を知り、読み手が共感できるような文章を学ぶ。	夏季課題提出
	10	7 資料を駆使する 『安くておいしい国』の限界」(読む) 「統計資料をもとに意見を書く」(書く)	・資料と文章の関係に注意して情報を読み取る。 ・統計資料を正確に読み取り、情報を組み合わせたり比較したりして、自分の主張を書く。	
	11	8 他者と交流する 「目的に沿った質問をする」(話す・聞く) 「状況に応じた通信文を書く」(書く)	・質問の目的を明確にし、知りたいことへの理解を深める。 ・通信文の基本的なルールを知る。 ・相手や場面に応じた通信文を書く。	
	12	9 情報を比較する 『美しさの発見』について」(読む)	・複数の文章を比較し、共通点や相違点をとらえる。	冬季課題学習
第 3 学 期	1	10 他者を動かす 「説得力のある資料をつくる」(書く) 「資料を用いて発表する」(話す・聞く)	・提案を検討する際に必要な要素を押さえる。 ・効果的な表現や資料の提示の工夫を学ぶ。 ・資料に基づいて、聴き手の心を動かす話し方を工夫しながら発表する。	冬季課題提出
	2	11 主張を吟味する 「贅沢を取り戻す」(読む) 「文章を読み取って主張を書く」 「討論をする」(話す・聞く)	・文章中の根拠や引用に注目し、その妥当性や信頼性を吟味する。 ・他者の主張をふまえて、自分の考えを書く。 ・司会者、参加者それぞれの役割を理解するとともに、論理展開や表現を意識しながら自分の意見を述べ、相手の話を評価する。	
	3	12 考えを発信する 「白」(読む) 「結論を出すために話し合う」(話す・聞く) 「レポートを書く」(書く)	・目的に即して必要な情報を読み取る。 ・異なる意見を持つ人同士が話し合い、結論の出し方を学ぶ。 ・適切な情報を集め、問いを立てる。 ・調べたことを根拠として、問いを解決するレポートを書く。	春季課題学習

進捗状況やコースによって学習内容を変更する可能性があります。

教科名	地 歴 公 民		科目名	地 理 総 合		必修				
科 別	普 通	科	学 年	1 年	コース名	一 貫	コース	2	単位	文理共通
教 科 書（発行所）		地理総合（東京書籍）								
副 教 材（発行所）		地理総合ワークノート（東京書籍）								

学 習 目 標		必修科目として、高等学校の地理をこの科目だけで終える生徒および引き続き地理探究を履修する生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の地理的に考える資質・能力の基礎を培う。
観 点 別 評 価	知 識・技 能	地理的諸事象について、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球の課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能などを各学期の定期考査、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	地理的事象の意味や意義、特色や関連性を、位置や分布、人間と自然環境との相互依存関係や地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、表現したりすることができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて主体的に追究し、地理的事象を多面的・多角的にな考察や深い理解に基づき判断しようとしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組み、ノートや課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別的小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 第1章 私たちが暮らす世界 第2章 地図や地理情報システムの役割	緯度・経度、地球儀と世界地図、日本の位置と領域 [発展]適切な地図を選ぼう 地図種類、地形図ルール、主題図種類と読取、地理情報システムと地図	【GW探究課題】
	5	第3章 資料から読み取る現代世界	[発展]地形図を読み取る。WebGISを使ってみよう。 交通の発達、情報通信の発達、国境を超える人々の移動、拡大する貿易、つながる世界・多極化する世界 [発展]グラフを読み取ろう、統計地図を読み取ろう、階級区分図を作ろう	中間考査
	6	第2編 国際理解と国際協力 第1章 人々の生活文化と多様な地球的環境 1節 生活文化の多様性と国際理解 2節 生活文化と自然環境①地形	文化の地域性と多様性、宗教と人々の暮らし、山地の暮らし、平野の暮らし、海岸の暮らし	
	7	3節 生活文化と自然環境②気候	多様な気候とその分布、熱帯の人々の暮らし、乾燥帯の人々の暮らし、温帯の人々の暮らし、亜寒帯・寒帯の人々の暮らし [発展]雨温図を読み取ろう	期末考査
第 2 学 期	9	4節 生活文化と産業	食生活と農業の分布、工業立地の変化、商業立地と人々の生活、情報産業の発達と生活文化の変化	【夏季探究課題】提出
	10	第2章 様々な地球的課題と国際協力 1節 地球環境問題 2節 資源・エネルギー問題	地球環境問題(1)、地球環境問題(2)、資源・エネルギーの偏在、化石燃料から再生可能エネルギーへ	中間考査
	11	3節 人口問題 4節 食料問題 5節 居住・都市問題	発展途上国の人口問題、先進国の人口問題、食糧需給をめぐる問題、発展途上国の居住・都市問題、先進国の居住・都市問題 [発展]人口ピラミッドを読み取ろう	
	12	6節 民族問題 7節 持続可能な社会の実現をめざして	民族問題・難民問題、地球的課題と国際協力 [発展]民族問題、持続可能な社会	期末考査
第 3 学 期	1	第3編 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境の特色	日本の地形の特色、日本の気候の特色	【冬季探究課題】提出
	2	2節 様々な自然災害と防災	地震災害・津波災害(1)、地震災害・津波災害(2)、火山の災害とめぐみ、気象災害(1)寒さ・暑さと台風、気象災害(2)大雨と洪水・土砂災害、都市と自然災害、防災・減災と復旧・復興 [発展]ハザードマップを読み取ろう	
	3	第2章 生活圏の調査と地域の展望	・目的に即して必要な情報を読み取る。 ・異なる意見を持つ人同士が話し合い、結論の出し方を学ぶ。 ・適切な情報を集め、問いを立てる。 ・調べたことを根拠として、問いを解決するレポートを書く。	学年末考査

教科名	地 理 歴 史	科目名	歴 史 総 合	必修					
科 別	普 通	科 学 年	1 年	コース名	一 貫	コース	2	単位	文 理 共 通
教 科 書（発行所）	詳説歴史総合(東京書籍)								
副 教 材（発行所）	詳説歴史総合 要点整理ノート(東京書籍)								

学 習 目 標		必修科目として、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を培う。
観 点 別 評 価	知 識・技 能	近現代の歴史を理解しているかどうかを、各学期の定期考査や単元別の小テスト・課題提出で評価し、要点整理ノート各項目の最後にある「TRY」の答えなどを提出させて、効果的に調べまとめる技能を評価する。
	思考・判断・表現	近現代の歴史の意味や意義をを考察、構想したことを説明したり、表現したりすることができるかを、定期考査の記述問題や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現のために、近現代の歴史を学習しているという自覚をもっているか、主体的に迫及・解決しようとしているかを、学習活動中の取り組みやノート・課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	序章 歴史の扉 1節 歴史と私たち 2節 歴史の特質と資料	・前近代の日本と世界のつながり ・前近代の世界 ・歴史と深くかかわる植物	【GW探究課題】
	5	第1章 近代化と私たち 1節 近代化への問い 2節 結びつく世界と日本の開国	・18世紀のヨーロッパとアジア ・産業革命のはじまり ・東アジアの国際秩序の変化日本の開国 ・世界経済の変化と日本の産業革命	中間考査
	6	3節 国民国家と明治維新	・市民革命と近代社会 ・自由主義とナショナリズム ・明治維新と東アジアの国際関係 ・帝国主義と植民地	
	7	4節 近代化と現代的な諸課題	・帝国主義諸国の競合と国際関係 ・20世紀はじめの世界	期末考査
第 2 学 期	9	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1節 国際秩序の変化や大衆化への問い 2節 第一次世界大戦と大衆社会	・第一次世界大戦の展開 ・国際協調体制の形成 ・ソヴィエト連邦の成立と社会主義 ・民主主義の拡大と社会変革の動き	【夏季探究課題】 提出
	10	3節 経済危機と第二次世界大戦	・世界恐慌 ・国際協調体制の崩壊 ・日中戦争と深刻化する世界の危機 ・第二次世界大戦の勃発	中間考査
	11		・アジア太平洋戦争と日本の敗戦 ・連合国の占領政策と日本の戦後改革 ・冷戦のはじまりと東アジアにおける展開 ・再編されるアジア	
	12	4節 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	・花ひらく大衆文化	期末考査
第 3 学 期	1	第3章 グローバル化と私たち 1節 グローバル化への問い 2節 冷戦と世界経済	・冷戦の拡大と第三勢力 ・キューバ危機と核兵器の管理 ・冷戦下の日本とアジア ・ベトナム戦争と冷戦構造の変容	【冬季探究課題】 提出
	2	3節 世界秩序の変容と日本	・石油危機と経済の自由化 ・アジアの経済発展と日本 ・冷戦の終結と世界 ・拡散する地域紛争	
	3	4節 現代的な諸課題の形成と展望	・目的に即して必要な情報を読み取る。 ・異なる意見を持つ人同士が話し合い、結論の出し方を学ぶ。 ・適切な情報を集め、問いを立てる。 ・調べたことを根拠として、問いを解決するレポートを書く。	期末考査

教科名	数 学		科目名	数 学 I		共 通		
科 別	普 通	科 学 年	1 年	コース名	一 貫	コース	3 単位	文 理 共 通
教 科 書（発行所）		数学Ⅰ(数研出版)、数学Ⅱ(数研出版)						
副 教 材（発行所）		4STEPⅠ+A(数研出版)、4STEPⅡ+B+C(数研出版)						

学 習 目 標		必修科目として、高等学校の数学をこの科目だけで終える生徒および引き続き数学を履修するする生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を培う。
観 点 別 評 価	知 識・技 能	数学用語・記号の理解、公式の理解、基本的な概念の理解、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別的小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた数学の知識や技能を効率よく活用して問題を解決し、さらに自分の考えを説明(表現)することができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、数学的論拠に基づき判断しようしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別的小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	【数学Ⅰ】 第4章 図形と計量 第2節 三角形への応用	4、正弦定理 5、余弦定理 6、正弦定理と余弦定理の応用 7、三角形の面積 8、空間図形への応用	
	5	第5章 データの分析	1、データの整理 2、データの代表値 3、データの散らばりと四分位範囲 4、分散と標準偏差 5、2つの変量の間の関係	中間考査
	6	【数学Ⅱ】 第1章 式と証明 第1節 式と計算	6、仮説検定の考え方 1、3次式の展開と因数分解 2、二項定理 3、多項式の割り算	
	7	第2節 等式と不等式の証明	4、分数式とその計算 5、恒等式 6、等式の証明 7、不等式の証明	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第2章 複素数と方程式	1、複素数 2、2次方程式の解と判別式 3、解と係数の関係	夏季課題提出 確認テスト
	10		4、剰余の定理と因数定理 5、高次方程式	中間考査
	11	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線	1、直線状の点 2、平面上の点 3、直線の方程式 4、2直線の関係	
	12		5、円の方程式 6、円と直線 7、2つの円 8、軌跡と方程式 9、不等式の表す領域	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	第4章 指数関数と対数関数 第1節 指数と指数関数	1、指数の拡張 2、指数関数	
	2	第2節 対数と対数関数	1、対数 2、対数関数 3、常用対数	学年末考査 課題学習
	3		・目的に即して必要な情報を読み取る。 ・異なる意見を持つ人同士が話し合い、結論の出し方を学ぶ。 ・適切な情報を集め、問いを立てる。 ・調べたことを根拠として、問いを解決するレポートを書く。	

教科名	数 学	科目名	数 学 A	共 通					
科 別	普 通	科 学 年	1 年	コース名	一 貫	コース	2	単位	文 理 共 通
教 科 書（発行所）	数学A（数研出版）、数学B（数研出版）								
副 教 材（発行所）	4STEP I + A(数研出版)、4STEP II + B + C(数研出版)								

学 習 目 標		必修科目として、高等学校の数学をこの科目だけで終える生徒および引き続き数学を履修するする生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を培う。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	数学用語・記号の理解、公式の理解、基本的な概念の理解、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別的小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた数学の知識や技能を効率よく活用して問題を解決し、さらに自分の考えを説明(表現)することができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、数学的論拠に基づき判断しようしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別的小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	【数学A】 第2章 図形の性質 第1節 平面図形	4、円に内接する四角形 5、円と直線	
	5		6、方べきの定理 7、2つの円	中間考査
	6	第2節 空間図形	9、直線と平面 10、多面体	
	7	第3章 数学と人間の活動	1、約数と倍数 2、素数と素因数分解	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9		3、最大公約数・最小公倍数 4、整数の割り算	夏季課題提出 確認テスト
	10		5、ユークリッドの互除法 6、1次不定方程式	中間考査
	11	【数学B】 第1章 数列 第1節 数列とその和	1、数列 2、等差数列とその和 3、等比数列とその和	
	12		4、和の記号Σ 5、階差数列	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	第2節 数学的帰納法	6、いろいろな数列の和 7、漸化式と数列	
	2		8、数学的帰納法	学年末考査 課題学習
	3		・目的に即して必要な情報を読み取る。 ・異なる意見を持つ人同士が話し合い、結論の出し方を学ぶ。 ・適切な情報を集め、問いを立てる。 ・調べたことを根拠として、問いを解決するレポートを書く。	

教科名	理 科		科目名	物 理 基 礎			必 修		
科 別	普 通	科	学 年	1 年	コース名	全	コース	2 単位	文 理 共 通

教 科 書（発行所）	改訂 新編 物理基礎(第一学習社)
副 教 材（発行所）	プログレス物理基礎(第一学習社)

学 習 目 標		主体性を持ち、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動などを科学的に探究するために必要な資質・能力を養い、日常生活や社会との関連を図りながら科学的素養を養う。
観 点 別 評 価	知 識・技 能	知識の習得や概念的理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているかを、小テスト、定期考査、実験活動を通して評価する。
	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して問題を解決できる思考・判断・表現力を、考査、実験活動、レポート等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	学習活動のあらゆる場面で、粘り強く学習に取り組み、自ら適切な学びを得ようとしているかを授業、ノート、実験活動等を通して評価する。
留 意 事 項		年間5回を予定している実験レポートは考査と同じ扱いであるので、必ず提出すること。丸写し等の不正厳禁。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学期	4	1節 運動の表し方 2節 変位と速度 3節 等速直線運動	運動の表し方を学び、運動の様子を定量化して調べる方法を理解する。 変位と速度の概念を理解し、活用する。 等速直線運動を定量化して表す。	【教材】映像教材、スマートカート(通年)
	5	4節 合成速度と相対速度 5節 速度が変わる運動 6節 自由落下運動	合成速度・相対速度について理解する。 徳加速度直線運動について学び、式での表現を理解する。 自由落下運動について実験を通して理解し、重力と等加速度運動についての理解を深める。	【実験】斜面を下る台車の運動、重力加速度の測定 ○中間考査
	6	7節 鉛直投射 9節 力とつり合い 10節 力の合成と分解 11節 垂直抗力と弾性力 12節 慣性の法則	鉛直投射について理解し、式で表し活用する。 力を見つけ図示する方法を学び、静止物体にはたらく力がつりあうことを理解する。 垂直抗力と弾性力について理解する。 慣性について、日常との関わりを持って理解する。	【教材】真空落下実験器、ストロボ装置 8節 水平投射は扱わない
	7	13節 運動の変化と力 14節 作用反作用の法則	運動が変化するとき力をはたらくことを実験を通して理解する。 運動方程式の立て方を学び、簡単な物体の運動について、運動方程式を用いて分析する。 作用反作用の法則について日常との関りを持って理解する。	【実験】弾性力の測定、力と加速度の関係 ○期末考査
	9	15節 動摩擦力とその性質 16節 静止摩擦力とその性質 19節 仕事 20節 仕事率	動摩擦力にどんな特徴があるか学び、活用する。 静止摩擦力にどんな特徴があるか学び、活用する。 物理での仕事の定義を学び、仕事を用いて運動の様子を理解する。 仕事率の定義を学び、日常との関りをもって理解する。	17節、18節は扱わない
第 2 学期	10	21節 運動エネルギー 22節位置エネルギー 23節力学的エネルギーの保存 24節いろいろな運動で見る力学的エネルギー	運動エネルギーの定義を学び、運動をエネルギーを通して理解する。 位置エネルギーの定義を学び、重力と弾性力による位置エネルギーを理解する。 力学的エネルギーの保存について実験・観察を通して理解する。 様々な運動におけるエネルギーの移り変わりを理解する。	○中間考査
	11	1節 温度と熱 2節 熱と物質 3節 熱の移動と保存 4節 熱と仕事 5節 熱機関と可逆変化	熱と温度の概念を学び、その違いを理解する。 熱による物質の変化の様子を学び、物質の3態を理解する。 比熱の概念を学び、熱の移動と熱量の保存を実験を通して理解する。 熱力学第一法則を学び、熱と仕事の関係を理解する。 熱機関のしくみを日常との関りを通して学ぶ。	【実験】熱の移動
	12	6節 いろいろな波 7節 波の表し方 8節 横波と縦波	波動現象の特徴を日常や実験・観察を通して理解する。 波を言葉やグラフ、数式を用いて表す方法を学ぶ。 横波と縦波の特徴を理解し、違いを学ぶ。	【教材】つるまきばね、シミュレーション ○期末考査
	1	9節 波の重ね合わせ 10節 定在波 11節 波の反射	波の重ね合わせを日常との関りを通して理解し作図による合成を学ぶ。 定在波の生じる理由を気づきを通して学び、その特徴を理解する。 波の反射を日常との関りを通して学び、反射波の作図を学ぶ。	【教材】ウェーブマシン、シミュレーション
	2	12節 音波 13節 弦の固有振動 14節 気柱の固有振動	波としての音の特徴を学び、音を物理的に捉える考え方を学ぶ。 弦楽器が音を奏でる理由を実験・観察を通して明らかにし、その特徴を理解する。 管楽器が音を奏でる理由を実験・観察を通して明らかにし、疎の特徴を理解する。	【教材】共鳴おんき、弦定常波実験器 【実験】弦の固有振動、気柱の固有振動
第 3 学期	3		・目的に即して必要な情報を読み取る。 ・異なる意見を持つ人同士が話し合い、結論の出し方を学ぶ。 ・適切な情報を集め、問いを立てる。 ・調べたことを根拠として、問いを解決するレポートを書く。	○学年末考査

教科名	理 科		科目名	化 学 基 礎				必 修		
科 別	普 通	科	学 年	1 年	コース名	一 貫	コース	2	単位	文 理 共 通

教 科 書（発行所）	化学基礎(数研出版)
副 教 材（発行所）	プロGRESS化学基礎(東京書籍)

学 習 目 標		日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高める。そのために、実験や観察等を通して化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
観 点 別 評 価	知 識・技 能	知識の習得や概念を理解できているか、また実験操作の基本的な技術を習得できているか、各学期の定期考查、実験レポート、単元別的小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力等を身につけているか、定期考查の論述問題や実験レポート等で判断する。
	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等を身につける過程において、粘り強く取り組んでいるか、自ら学習を改善しようとしているか、授業中の演習問題への取り組み、実験への取り組み、課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別的小テストや実験、課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 1. 純物質と混合物 2. 物質とその成分	物質の分類とその分離法について理解する 物質の基本的な成分について理解する	実験(混合物の分離)
		3. 物質の三態と熱運動	物質の状態とその変化について理解する	実験レポート提出
	5	第2章 物質の構成粒子 1. 原子とその構造	原子の構造を学び、原子ごとの構造の違いを考える	中間考查
	6	2. イオン 3. 周期表 第3章 粒子の結合 1. イオン結合とイオン結晶	イオンの成り立ちとイオンの表し方を学ぶ 周期表がどう決まりで元素を並べているか理解する イオン結合とイオン結晶の性質を理解し、組成式について学ぶ	確認テスト
	7	2. 共有結合と分子 3. 配位結合、4. 分子間にはたらく力 5. 高分子化合物、6. 共有結合の結晶 7. 金属結合と金属結晶	共有結合と、分子の表し方や形について学ぶ 配位結合の成り立ち、分子間力と分子結晶の性質を理解する 高分子化合物の成り立ちや構造、共有結合の結晶の性質を理解する 金属結合と金属結晶の性質を理解する	期末考查 課題学習
第 2 学 期	9	第2編 物質の変化 第1章 物質量と化学反応式 1. 原子量・分子量・式量 2. 物質量	原子の質量の表し方の工夫について理解する 物質量を用いた数の表し方について理解する	夏季課題提出 確認テスト
		3. 溶液の濃度	溶液の濃度の表し方(2種類)について理解する	
	10	4. 化学反応式と物質量	化学反応式が表す量的関係について理解する	中間考查
	11	第2章 酸と塩基の反応 1. 酸・塩基 2. 水素イオン濃度とpH	酸・塩基の定義と性質、その種類について理解する pHと水溶液の性質の関係について理解する	確認テスト
	12	3. 中和反応と塩 4. 中和滴定	中和反応のしくみと塩の性質について理解する 中和反応の量的関係と中和滴定について理解する	実験(中和滴定) 実験レポート提出 期末考查 課題学習
第 3 学 期	1	第3章 酸化還元反応 1. 酸化と還元 2. 酸化剤と還元剤 3. 金属の酸化還元反応	電子に着目して酸化・還元のか考え方を理解する 酸化剤や還元剤のはたらきや量的関係について理解する さまざまな金属の反応性について理解する	冬季課題提出 確認テスト 実験(酸化剤と還元剤の反応) 実験レポート提出
	2	4. 酸化還元反応の利用	電池や金属の製錬など酸化還元反応の利用について理解する	
	3		・目的に即して必要な情報を読み取る。 ・異なる意見を持つ人同士が話し合い、結論の出し方を学ぶ。 ・適切な情報を集め、問いを立てる。 ・調べたことを根拠として、問いを解決するレポートを書く。	学年末考查 課題学習

教科名	理 科		科目名	生 物 基 礎			必修		
科 別	普 通	科	学 年	1 年	コース名	一 貫	コース	2 単位	文理共通
教科書（発行所）		高等学校 生物基礎（第一学習社）							
副教材（発行所）		セミナー 生物基礎（第一学習社）							

学 習 目 標		生物や生命現象についての観察,実験や課題研究などを行い,自然に対する興味, 関心や探究心を高め,生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則の理解を深め,科学的な自然観を育成する。演習を通じて,大学入試問題を解凍できる能力を育成する。
観 点 別 評 価	知 識・技 能	生物や生物現象についての理解を深め, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する技能を身に付けている。(定期考査・実験レポート)
	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見いだし, 見通しをもって観察, 実験などを行い, 科学的に探究する力を身に付けている。(定期考査・実験レポート)
	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり, 科学的に探究しようとする態度を身に付けている。(実験レポート・授業態度)
留 意 事 項		単元別の小テストや課題, ノート提出等の実施時期については, 教科担当者が指示を行う。 実験は授業進度の状況を見ながら各学期一回以上行うこととする。 観点別評価については, A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1章 生物の特徴 1. 生物の共通性 ①生物の多様性と共通性 ②生物の共通性の由来	・地球上のさまざまな環境には, 多種多様な生物が生息しており, 生物は多様であることを学ぶ。 ・生物が共通にもつ特徴を学ぶ。 ・原核細胞と真核細胞でそれぞれみられる特徴を学ぶ。	
	5	2. 生物とエネルギー ①生物とエネルギー ②代謝とATP ③代謝と酵素	・代謝には同化と異化があること, 代謝に伴うエネルギーの移動にはATPが関わっていることを学ぶ。 ・光合成, 呼吸の反応, ATPの合成について学ぶ。 ・酵素の基本的な特徴について理解する。	中間考査
	6	第2章 遺伝子とその働き 1. 遺伝子の本体と構造 ①遺伝情報とDNA ②DNAの複製と分配	・遺伝子とDNA, 染色体の関係を理解する。 ・DNAの基本的な構造を理解する。 ・多細胞生物では, 一部の細胞が分裂して増殖し, 分裂している細胞には細胞周期がみられることを理解する。	
	7	2. 遺伝情報とタンパク質 ①遺伝情報とタンパク質 ②転写と翻訳 ③遺伝子とゲノム	・分裂している細胞の各過程で起こる現象を理解する。 ・生体内には多種多様なタンパク質が存在していることを理解する。 ・DNAの転写, 翻訳の流れを理解し, タンパク質がどのように合成されているかを学ぶ。 ・遺伝子がゲノムの一部であることを理解する。	期末考査
第 2 学 期	9	第3章 ヒトのからだの調節 1. 情報の伝達と体内環境の維持 ①恒常性と神経系 ②恒常性と内分泌系	・体内の状態が一定の範囲内で保たれるという恒常性について学ぶ。 ・体液の種類である血液, 組織液, リンパ液について理解する。 ・自律神経系には交感神経と副交感神経があり, これらが拮抗的に働くことによって体内環境を調節していることを理解する。	
	10	③体内環境を調節するしくみ 2. 免疫 ①生体防御	・内分泌系による体内環境調節の特徴について理解する。 ・血液凝固のしくみと体内環境の維持との関係について理解する。 ・皮膚や粘膜による生体防御について理解する。	中間考査
	11	②自然免疫 ③獲得免疫 ④自然免疫と獲得免疫の特徴 ⑤免疫と生活	・免疫に関する細胞や器官の種類と働きを理解する。 ・自然免疫, 獲得免疫のしくみを理解する。 ・免疫に関する身近な疾患, 免疫と医療の関わりについて学ぶ。	
	12	第4章 植生と遷移 1. 植生と遷移 ①植生と環境の関わり ②遷移のしくみ	・植生の種類と構造について学ぶ。 ・陽生植物, 陰生植物の光合成速度の特徴を理解する。 ・植生は一定ではなく, 移り変わっていることを具体例に基づいて理解する。	期末考査
第 3 学 期	1	2. バイオーム ①遷移とバイオーム 第5章 生態系とその保全 1. 生態系と生物の多様性 ①生態系の構成要素 ②生態系における生物どうしの関わり	・地球上において年平均気温, 年降水量から, その地域に生育する植物を基盤としたさまざまなバイオームが成立することを理解する。 ・日本におけるバイオームの水平分布と垂直分布を理解する。 ・生態系の構成について理解する。	
	2	2. 生態系のバランスと保全 ①生態系の変動と安定性 ②人間活動による生態系への影響とその対策	・生物は, 食物連鎖(食物網)によってつながっていることを理解する。 ・キーストーン種によって生態系のバランスが保たれている場合があることを理解する。 ・生態系保全の国際的な取り組み, 絶滅危惧種の保全について学ぶ。	
	3		・目的に即して必要な情報を読み取る。 ・異なる意見を持つ人同士が話し合い, 結論の出し方を学ぶ。 ・適切な情報を集め, 問いを立てる。 ・調べたことを根拠として, 問いを解決するレポートを書く。	学年末考査

教科名

保健体育

科目名

体 育

必修

科 別

普通

科 学 年

1

年 コース名

全

コース

2

単位

文理共通

教科書（発行所）

新高等保健体育(大修館)

副教材（発行所）

学 習 目 標		心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	知識は各種目のルール、用具の名前、安全に配慮した実施方法等の理解をしているかをICTを活用し評価する。技能は実技テストで評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた知識や技能を効率よく活用し、自分の考えを説明（表現）することができるかを学習活動中の取り組みやICT
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、各自の体力に合わせた課題設定を行い、評価（
留 意 事 項		・服装は学校指定の体操着を着用する（見学者も同様）。 ・授業はチャイムと同時に開始することを原則とするので、活動場所への移動は休み時間内に完了しておく。 ・貴重品の管理をしっかりとする。 ・体調管理は各自の責任で行い、事故・怪我が起こらないよう場所の確保、運動器具の整備に努め、安全に留意する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学期	4	・体づくり運動 ・陸上競技	・新体力テストに関する技能を高め、測定する。 ・足の地面への押しや上半身のひねり戻しを使って、ハンドボールを遠くに投げるができる。 ・自分なりのペース・走り方を習得し、健康保持増進・体力向上を図ることを目標とし、20mシャトルランを行う。 ・クラウチングスタートから力強く加速し、高いスピードを維持して50m走を行う。	
	5	・体づくり運動 ・体育理論	・スクワットを安全に行うことができる。 ・ベンチプレス、スクワット、デッドリフトからなるbig3で自己の限界に挑戦する。 ・デッドリフトを安全に行うことができる。 ・スポーツの発祥と成立 ・スポーツ文化の発展と現代社会	
	6			
	7			
第 2 学期	9	・種目練習	・自己観察や他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・クラスの輪を重んじ、競技力向上に努める。	
	10	・武道(剣道) ・体育理論	・素振りと自重トレーニングを組み合わせて、筋力と心肺能力をバランスよく高めることができる。 ・正面素振り、早素振りを正しく行える。 ・剣道における礼法を理解し、実施することができる。 ・オリンピック・パラリンピックと国際社会 ・スポーツの経済効果とスポーツ産業 ・スポーツに求められる高潔さ	
	11			
	12			
第 3 学期	1	・球技 【バスケットボール】 A) 用具の扱い B) トリプル・パス・シュートなどの基本技術 C) 基本技術を用いた複合練習 D) 対人練習 E) ルールを知る F) ゲーム(戦術練習)	・ゴールリングやボールを正しく操作でき、基本技術を正しく身につけられる。 ・複合練習の中でより実践に近い技能を身に付けられるとともに、他者との関わり(コミュニケーション能力)や空間能力を養うことができる。 ・対人練習の中で、攻防の楽しさ・工夫を味わい、戦術を考える思考力を養うことができる。 ・ルールを知り、知識を深める。 ・ゲームを通じ、勝敗を競ったり、チームの課題を解決するなどの楽しさや喜びを味わうことができる。 ・チーム内での役割に応じた技能を発揮することができる。 ・リーグ戦の中で、審判や運営等を主体的に取り組むことができる。 ・持続可能性からみたスポーツと環境	
	2			
	3	・体育理論		

教科名	保 健 体 育		科目名	体 育			必 修		
科 別	普 通	科	学 年	1 年	コース名	全	コース	2 単位	文 理 共 通

教科書（発行所）	新高等保健体育(大修館)
副教材（発行所）	

学 習 目 標		心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	知識は各種目のルール、用具の名前、安全に配慮した実施方法等の理解をしているかをICTを活用し評価する。技能は実技テストで評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた知識や技能を効率よく活用し、自分の考えを説明(表現)することができるかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、各自の体力に合わせた課題設定を行い、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
留 意 事 項		・服装は学校指定の体操着を着用する(見学者も同様)。 ・授業はチャイムと同時に開始することを原則とするので、活動場所への移動は休み時間内に完了しておく。 ・貴重品の管理をしっかり行う。 ・体調管理は各自の責任で行い、事故・怪我が起こらないよう場所の確保、運動器具の整備に努め、安全に留意する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第1学期	4	・体づくり運動 ・陸上競技	・新体力テストに関わる技能を高め、測定する。 ・足の地面への押しや上半身のひねり戻しを使って、ハンドボールを遠くに投げるができる。 ・自分なりのペース・走り方を習得し、健康保持増進・体力向上を図ることを目標とし、20mシャトルランを行う。 ・クラウチングスタートから力強く加速し、高いスピードを維持して50m走を行う。	
	5	・球技 【ソフトボール】 A) 用具の扱い B) 基本技術 スイング	・基本技術を正しく身につけられる。 ・ベースボール型球技においての攻防の楽しさを味わい、戦術を考える思考力を養うことができる。 ・ルールを知り、知識を深める。 ・ゲームを通じ、勝敗を競ったり、チームの課題を解決するなどの楽しさや喜びを味わうことができる。	
	6	スローイング キャッチング Dピッチング練習 E) ゲーム形式練習(ルールの理解)	・パートナーと役割に応じた技能を発揮することができる。 ・ゲーム練習の中で、審判や運営等を主体的に取り組むことができる。	
	7	・体育理論	・スポーツの発祥と成立 ・スポーツ文化の発展と現代社会	
第2学期	9	・種目練習	・自己観察や他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・クラスの輪を重んじ、競技力向上に努める。	
	10	・体づくり運動 ・器械運動(マット) ・体育理論	・ダイナミックストレッチや運動解剖学的に正しいストレッチを通してしなやかな身体をつくることができる。 ・回転系、巧技系の基本的な技に加え、条件を変えた技、発展技に取り組む。 ・技術の上達過程と練習の考え方、効果的な動きのメカニズム ・オリンピック・パラリンピックと国際社会	
	11	・球技 【サッカー】 A) 用具の扱い B)トリプル・パス・シュートなどの基本技術 C)基本技術を用いた複合練習 D)対人練習	・ボールを持たない時の動きを考え、空間に走りこんでパスをもらうことができるようにする。 ・パス&コントロール 動きながらボールを受け、動きながらパスをできるようにする。 ・ポジションと特性を理解し、作戦を考える。 ・ゲーム形式によるボール操作と空間に走りこむ動き。 ・安定したボール操作、力強いシュート、チーム戦術、審判法や試合運営。	
	12	E)ルールを知る F)ゲーム(戦術練習)	・スポーツ推進のための施策と課題 ・スポーツで「未来」を創る	
第3学期	1	・陸上競技 【走り高跳び】 A) はさみ跳び・ベリーロールの技能の習得 B) 記録計測・フォームの実技テスト	・2種類の跳び方について、助走方法や空中姿勢、着地について正しく身につけることができる。 ・自己観察・他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・記録計測において、自己の力を最大限発揮するとともに安全に留意し、スムーズに運営できるよう主体的に取り組む。	
	2	・体育理論	・持続可能性からみたスポーツと環境	
	3			

教科名	芸 術		科目名	音 楽 I			必修		
科 別	普 通 科		学 年	4 年	コース名	全	コース	2 単位	文理共通

教科書（発行所） 音楽 I Tutti+ トウッティプラス（教育出版）

副教材（発行所）

学 習 目 標		音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成し、心のゆとりと豊かな情操を養うことを目指す。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
	思考・判断・表現	・音楽を形づくっている要素や関連性を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	・主体的・協働的に歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
留 意 事 項		・プリント保管用のファイルを用意すること。 ・観点別評価については、学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	・教科ガイダンス ・楽器学 ・ウクレレ弾き歌い (Immersion)	・中学校までの学習内容確認。年間計画、評価方法等について説明。 ・オーケストラの楽器紹介。 ・中学校の学習事項の復習、新しいコードを覚える	
	5	・鑑賞、音楽史 ・楽典1 ・ウクレレ弾き歌い (Immersion) ・合唱祭曲決め	・ロマン派の音楽 ・反復記号 ・より発展的な演奏技術を会得する。 ・秋の合唱祭に向けた目標を立てる。	映像による鑑賞
	6	・楽典2、3 ・ミュージカルの世界 ・実技テスト (ウクレレ弾き歌い)	・音名 (日本・イタリア・ドイツ)、調号 ・ミュージカルの歴史を学ぶ。主要な作品を鑑賞し面白さを感じ取る。 ・3、4人の小グループで実施。音楽的な評価より、表現力を重視する。	映像による鑑賞
	7	・合唱祭の準備、練習 ・楽典4 ・1学期の復習、小テスト	・歌詞を覚え、パート毎に練習を進める。 ・音符の計算 ・楽典の理解力を図る。	
第 2 学 期	9	・合唱祭の練習 ・楽典5 ・ウクレレ弾き歌い (Immersion)	・各ペアで楽曲に適したパフォーマンスを取り入れ発表する。 ・リズム譜 ・ウクレレのレパートリーを増やし、合唱祭で演奏する曲目を決める。	
	10	・合唱祭の練習 ・鑑賞、音楽史 ・楽典6 ・ウクレレ弾き歌い (Immersion)	・全体での練習を増やし、表現技術を磨く。 ・近・現代の音楽 ・関係調 ・歌詞とコードを覚え、合唱祭の練習を進める。	映像による鑑賞
	11	・合唱祭の練習 ・ウクレレ弾き歌い (Immersion) ・楽典7	・本番に向け、表現を磨く ・本番に向け、表現を磨く ・音程	
	12	・合唱祭の振り返り ・バレエの世界 ・創作 ・2学期の復習、小テスト	・振り返りシートを用い、表現力向上を実感する。 ・バレエの歴史を学ぶと共に主要な作品を鑑賞し、面白さを感じ取る。 ・二部形式の歌を作曲 ・楽典の理解度を図る。	映像による鑑賞
第 3 学 期	1	・創作 ・スピーチ準備 (Immersion)	・二部形式の歌を作曲 ・MVを鑑賞し、感じ取ったことを言語化し、英語で発表する。	作品提出
	2	・実技テスト (歌唱) ・鑑賞 ・スピーチ (Immersion)	・自由曲。曲想を歌詞の内容とかかわらせて、イメージを持って音楽を表現する。一人ずつ実施。 ・民族音楽 (アフリカ・アジアの音楽) ・一人ずつ実施。	映像による鑑賞
	3	・オペラの世界	・目的に即して必要な情報を読み取る。 ・異なる意見を持つ人同士が話し合い、結論の出し方を学ぶ。 ・適切な情報を集め、問いを立てる。 ・調べたことを根拠として、問いを解決するレポートを書く。	映像による鑑賞

教科名	芸 術		科目名	美 術 I			必修	
科 別	普 通 科		学 年	4 年	コース名	一 貫 コース	2 単位	文理共通

教科書（発行所） 高校美術(日本文教出版)

副教材（発行所）

学 習 目 標		美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と広くかかわる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表わすことができるようにする。
	思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識を持って美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
	主体的に学習に取り組む態度	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情をはぐむとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
留 意 事 項		観点別評価については、学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	オリエンテーション 鉛筆によるグラデーション(10段階・2種) 〈絵画〉	高校の美術の意義、内容、制作、鑑賞など全般にわたって説明し理解を得る。 斜投影法を生かして立体感のある図形を構成し描く。	講評と観賞
	5	模写「白貂を抱く貴婦人の肖像」 〈絵画〉	レオナルド・ダ・ヴィンチ作品を鉛筆にて模写。 よく観察して描くことによって、制作者の狙いや心情を理解。 原画の色彩、明暗表現をモノトーンで描く。	
	6	同	細部までよく観察し、描くことにより、その良さを感じ取り、自己の表現力を高める。 グリッド線を利用し、正確に形を写し取る。	講評と観賞
	7	文字のデザイン、色彩 進化する文字 〈デザイン〉	様々な文字のデザイン、色彩を学ぶ。 漢字がもともと絵や図から変化して文字となった経緯を理解する。好きな漢字を選びそのもとなった絵や図を自由に発想する。	講評と観賞
第 2 学 期	9	進化する文字の続き	下図を本紙にトレース。漢字の配色、画面全体の構成を考え彩色する。	
	10	手の彫刻 〈彫刻〉	自分の左手(又は右手)をモデルにして、三方向から見た形を鉛筆デッサン。立体感を感じ取る。	
	11	同	ポーズを考えて、骨格等をよく観察し、粘土で肉付けをする。手首までの充分な大きさ、様々な角度から観察をする。	
	12	パラパラ(アニメーション) 〈デザイン〉	24コマを基本として画像撮りをする。	
第 3 学 期	1	自由制作(平面・立体可) 〈絵画〉 〈彫刻〉 〈デザイン〉 〈映像〉	各自のテーマに従って作品をつくる。 アイディア・スケッチをし、具体的な素材、材料を用意し、制作していく。	
	2	同	細部と全体を意識し、表面的な表現にならないように。	
	3	同	・目的に即して必要な情報を読み取る。 ・異なる意見を持つ人同士が話し合い、結論の出し方を学ぶ。 ・適切な情報を集め、問いを立てる。 ・調べたことを根拠として、問いを解決するレポートを書く。	講評と観賞

教科名	外国語		科目名	英語コミュニケーションⅠ			必修				
科別	普通	科	学年	4	年	コース名	一貫	コース	4	単位	文理共通
教科書（発行所）		FLEX ENGLISH COMMUNICATIONⅠ（増進堂）									
副教材（発行所）		英文法・語法Vintage（い い ず な 書 店）／ チャンクで英単語Standard（三省堂）									

学 習 目 標		英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、英語を読んだり聞いたりして得た情報を的確に理解する能力、英語で自身の意見を適切に表現し発表する能力を総合的に培う。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し、これらの知識を聞く・読む・話す・書くといった実際のコミュニケーションにおいて適切に活用することが出来るかを、小テストや定期考査等で評価する。
	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題について、英語でその情報や考えの概念や要点、詳細や相手の意図を的確に理解し、これらを活用して適切に表現したり伝えたりすることが出来るかを、小テストや定期考査等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	知り得た知識を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、円滑な言語活動に向けて見通しを立てたり学習を振り返ったりするなど、自らの学習を主体的に捉えている状況を、各種テストや授業への取り組みの様子等で評価する。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進度の状況を把握しながら教科担当者が指示する。(小テストにはスピーキングテストも含む。)観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学期	4	LESSON 1 How Can We Become Stronger?	【文法事項】助動詞 / to不定詞(名詞的・形容詞的・副詞的用法) 自分自身の心をコントロールする努力の大切さを、松岡修造さんの言葉から学び高校生活の心構えを考える。	準備課題提出 確認テスト
	5	LESSON 2 The Jar of Life	【文法事項】動名詞 / 間接疑問文 人生の中で優先順位を考えることの大切さを学び、自分たちの生活においても実際の優先度を考える。	中間考査
	6	LESSON 3 It's Always Sunny in Space!	【文法事項】後置修飾 / 現在完了形 エネルギー問題について学びながら、地球を守るためにはどんなことを意識すればよいかを考える。	
	7	LESSON 4 Malala : Fighting for Women's Rights	【文法事項】関係代名詞 / 過去完了形 マララの過酷な人生について学び、教育を受ける意義や女性の様々な権利について考える。	期末考査 課題学習
第 2 学期	9	LESSON 5 Mount Fuji	【文法事項】使役動詞 / 節を導く形式主語 it 富士山がこれまでの歴史で人々に与えてきた影響について学び、世界文化遺産に選ばれた理由を考える。	夏季課題提出 確認テスト
	10	LESSON 6 Thomas the Tank Engine and SDGs	【文法事項】関係代名詞 what / 強調構文 It...that～ 人気のテレビ番組を通してSDGsの問題について学び、幅広い視点を養いながら身の回りの物事を考える。	中間考査
	11	LESSON 7 Virtual Water	【文法事項】関係代名詞の非制限用法 / 関係副詞 “仮想水”という考え方を学びながら、日常生活で水がどれだけ使われ大切なものであるかを考える。	
	12	LESSON 8 Wearable Robots May Change Our Life	【文法事項】仮定法過去 / 仮定法過去完了 日本で起きている様々な社会問題を学びながら、“wearable robots”の有用性や今後の展望を考える。	期末考査 課題学習
第 3 学期	1	LESSON 9 Biomimicry - Inspired by Nature	【文法事項】知覚動詞 / 分詞構文 生態系から得られた発見がどのように実生活に生かされているかを学び、様々な問題への解決策を考える。	冬季課題提出 確認テスト
	2	LESSON 10 Donald Keene and His Love of Japan	【文法事項】前置詞 + 関係代名詞 / 完了進行形 Donald Keeneの生涯を学びながら、彼が日本や世界にどのような影響を与えたのかを考える。	
	3	同上	・目的に即して必要な情報を読み取る。 ・異なる意見を持つ人同士が話し合い、結論の出し方を学ぶ。 ・適切な情報を集め、問いを立てる。 ・調べたことを根拠として、問いを解決するレポートを書く。	学年末考査 課題学習

教科名	外国語		科目名	論理・表現 I		必修				
科別	普通	科学年	4	年	コース名	一貫	コース	2	単位	文理共通
教科書（発行所）		be English Logic and Expression I Smart (い い ず な 書 店)								
副教材（発行所）		Evergreen English Grammar 25 Lessons(い い ず な 書 店) / Evergreen English Grammar 25 Lessons Workbook(い い ず な 書 店) 英文法・語法Vintage(い い ず な 書 店) / チャンクで英単語Standard(三省堂)								

学 習 目 標		学習した文法規則や定型表現を活用しながら、自分の考えや意見を英語を用いて能動的に発信しようとする態度を培うとともに、論理展開や表現方法を工夫しながら自分の考えや意見等を英語で伝える力を養う。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	自分の考えや意見を正しく伝えるために英語の文法規則や定型表現について学び、それらを正しく運用することが出来ているかどうかを、小テストや定期考査等で評価する。
	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し要点や意図などを明確にしながら、正しい情報や自分の考えを伝え合うことが出来ているかどうかを、小テストや定期考査、授業中の取り組み等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	知り得た知識を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、円滑な言語活動に向けて見通しを立てたり学習を振り返ったりするなど、自らの学習を主体的に捉えている状況を、各種テストや授業への取り組みの様子等で評価する。
留 意 事 項		単元別的小テストや課題、発表活動等の実施時期については、進度を把握しながら教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	Introduction 「やり取り」「発表」「書く」のためのウォーミングアップ LESSON 1 Meeting People	英語の語順 / 名詞・形容詞・副詞・動詞の使い方 / 英語の文の種類 / 英語の文のつなぎ方 現在形 / 現在進行形 / 状態動詞・動作動詞	準備課題提出 確認テスト
	5	LESSON 2 Holidays and Weekends LESSON 3 Making Plans	過去形 / 過去進行形 / used to doを用いた表現 未来を表す表現(will / be going to do) / 未来進行形 / 時や条件を表す副詞節の中の時制	中間考査
	6	LESSON 4 Travel LESSON 5 Study and Activities REVIEW ① LESSON 6 Food LESSON 7 School Life	現在完了形(完了・経験・継続) / 現在完了進行形 / 現在完了形と過去形 過去完了形(完了・経験・継続・大過去) / 過去完了進行形 / 未来完了形 LESSON 1～5の復習(時制の復習) 助動詞の用法①(可能 / 可能性 / 過去の推量) 助動詞の用法②(命令 / 禁止 / 確信 / 推測 / 過去の後悔・確信)	
	7	LESSON 8 Daily Life LESSON 9 Transportation Issues REVIEW ②	助動詞の用法③(意志 / 過去の習慣 / 依頼・提案) 受動態 / 進行形・完了形の受動態 / 感情を表す受動態 LESSON 6～9の復習(助動詞と受動態の復習)	期末考査 課題学習
	9	LESSON 10 The Future LESSON 11 Staying Healthy LESSON 12 New Products	不定詞①(名詞用法 / 疑問詞 + 不定詞 / 意味上の主語 / 否定形) 不定詞②(形容詞用法 / 副詞用法(目的・原因) / 形容詞 + 不定詞) 不定詞③(SVO + 不定詞 / 使役動詞・知覚動詞と原形不定詞 / 不定詞の進行形・受動態・完了形)	夏季課題提出 確認テスト
第 2 学 期	10	LESSON 13 Hobbies and Interests LESSON 14 The World of Nature LESSON 15 Trouble and Accidents REVIEW ③	動名詞 / 動名詞の意味上の主語 / 否定形 / 動名詞の受動態・完了形 分詞①(限定用法 / 分詞形容詞 / 叙述用法 / 分詞を使う表現) 分詞②(SVO + 分詞 / 知覚動詞と分詞 / 分詞構文 / 付帯状況のwith) LESSON 10～15の復習(準動詞の復習)	中間考査
	11	LESSON 16 Technology and Invention LESSON 17 Achievements LESSON 18 Cities and Towns	関係詞①(関係代名詞(主格・目的格・所有格) / 前置詞と関係代名詞) 関係詞②(関係代名詞の非限定用法 / 情報を付け加える which / 関係代名詞 what) 関係詞③(関係副詞 / 関係副詞の限定用法・非限定用法 / 複合関係詞)	
	12	LESSON 19 Living Environment LESSON 20 Social Problems	比較①(原級 / 比較級 / 倍数・分数表現 / 比較対象の表し方) 比較②(最上級 / 原級・比較級・最上級の表現)	期末考査 課題学習
	1	REVIEW ④ プレゼンテーションをしてみよう！ LESSON 21 Making a Wish	LESSON 16～20の復習(比較・関係詞の復習) 既習事項を用いて原稿を作り、グループでプレゼンテーションを行う 仮定法過去 / 仮定法過去完了 / 願望を表す仮定 / 仮定法を用いた表現	冬季課題提出 確認テスト
第 3 学 期	2	LESSON 22 Cross-cultural Communication LESSON 23 Giving Opinions	接続詞(名詞節のthat・whether / 時・理由・条件 / 譲歩 / 接続副詞) 提案・要求を表す動詞と用いるthat節 / so～that と so that / It is said that S+V / It is certain that S+V)	
	3	REVIEW ⑤ ディスカッションをしてみよう！	・目的に即して必要な情報を読み取る。 ・異なる意見を持つ人同士が話し合い、結論の出し方を学ぶ。 ・適切な情報を集め、問いを立てる。 ・調べたことを根拠として、問いを解決するレポートを書く。	学年末考査 課題学習

教科名	家庭科	科目名	家庭基礎	必修					
科別	普通科	科 学 年	4 年	コース名	一 貫	コース	2	単位	

教科書（発行所）	大修館書店「家基709」「Creative Living【家庭基礎】で生活を作ろう」
副教材（発行所）	第一学習社 生活ハンドブック

学 習 目 標		人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけている。
	思考・判断・表現	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現を工夫するなど、生活を創造する能力を身につけている。
	主体的に学習に取り組む態度	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。
留 意 事 項		小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 定期考査の点と提出物を観点別評価に組み込む 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第1学期	4	第8章経済生活のマネジメント 1 生活を営むためのお金 2 経済の仕組みを知ろう 3お金と上手に付き合う術 4 18歳で変わる消費生活	1 経済的な自立 2 家計の構造と社会 3 経済計画とリスク管理 4 消費と契約	
	5	5 進むキャッシュレス社会 6 「お金を借りる」ということ 7 消費者トラブルの今 8 消費者の自立を支援する	5 購入方法・支払方法の多様化 6 消費者信用の利用と管理 7 多様化する消費者問題 8 消費者保護の法律としくみ	中間考査
	6	9 情報社会を生きる 10 私たちが社会を動かす 第9章 食生活のマネジメント 1 体と心を満たす食事 2 イエローカードかも？	9 情報の収集と整理 10 消費者の権利と責任 1 食事の役割 1 食生活を見直す	
	7	3 栄養バランスの良い食事 4 炭水化物を摂る	3 栄養素の量と食事の量 4 炭水化物の働きと食品の調理性	期末考査 夏季休業課題 ゼラチンと寒天の比較
第2学期	9	5 脂質を摂る 6 たんぱく質を摂る	5 脂質の働きと食品の調理性 6 たんぱく質の働きと食品の調理性	
	10	7 無機質を摂る 8 ビタミンを摂る	7 無機質の働きと食品の調理性 8 ビタミンの働きと食品の調理性	金融教育講義 調理実習
	11	10 豊かな食卓に 11 食品のプロフィールを知る 12 食品を安全に取り扱う	10 調味料・香辛料・嗜好品・加工食品 11 食品の選択と購入 12 食品の保存と衛生士	実技テスト りんごの皮むき試験
	12	13 持続可能な食生活 14 みんなでおいしい食事を	13 環境と食生活 14 献立に立て方	期末考査
第3学期	1	第3章 家族・家庭生活のマネジメント 1 家族って何だろう 2 分かってくれて当然 3 生活マネジメントの拠点	1 家族の定義と家族構成の変化 2 家族の人間関係と家族間の問題 3 家庭の機能と労働	
	2	4 法律から見る家族・家庭 5 ダイバーシティの実現を目指す	4 家族・家庭の法律 5 家族・家庭と社会	
	3	テスト返却と復習まとめ	・目的に即して必要な情報を読み取る。 ・異なる意見を持つ人同士が話し合い、結論の出し方を学ぶ。 ・適切な情報を集め、問いを立てる。 ・調べたことを根拠として、問いを解決するレポートを書く。	学年末考査